

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 鮫島弘光	提出日：平成 24年 9月 25日
東南アジア研究所における職名： 特定研究員（科学研究） * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。（講師・助教・助手・ ポスドク ・博士課程学生・修士課程学生・学部学生）	
派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名（日本語で記載）及びカウンターパート名）： サラワク森林公社（マレーシア）、インドネシア科学院（インドネシア）、ブルネイ大学（ブルネイ） * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。（ 大学 ・ 研究機関 ・ 企業 ・ その他 ）	
派遣先の研究機関等での職名： 研究員	
派遣期間： 平成 24年 6月 24日 ～ 平成 24年 8月 22日（派遣日数：60日）	
研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可） ①研究・実験 ② フィールドワーク ③ セミナー ④インターンシップ ⑤サマースクール等の講習 ⑥学会出席 ⑦単位取得等 ⑧その他	
研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。） ① 文学 ②社会科学 ③数物系科学 ④化学 ⑤ 工学 ⑥ 生物学 ⑦ 農学 ⑧医歯薬学 ⑨総合領域 ⑩複合新領域	
派遣の概要（500～700字程度） 申請者は基盤S(石川)「東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究」の研究員として、主にマレーシア・サラワク州(ボルネオ島)の Anap-Muput 森林管理区で自動撮影カメラによる地上性哺乳類の調査を行っているが、インドネシア科学院などとの協力をもとにカリマンタン側でも同様の調査を行ってもらい、森林伐採が哺乳類に与える影響のボルネオ一般での傾向や、その中での地域変異を明らかにしようとしている。 6月25～27日のブルネイの Borneo Research Council、6月29日のクチンのシンポジウムではこれまでの成果を発表を行い、サラワク森林公社植物研究センターの Malcom ak Demies 氏など現地の研究者との共同研究をすすめた。 7月4～18日のインドネシア滞在中には、比較のためインドネシア側で同じやり方で調査をして頂いているインドネシア科学院生物学研究所動物局の Gono Semiadi 氏と調査方法のすり合わせを行った。Gono 氏とはこれまで蓄積してきたカメラトラップのデータを使って、解析を進める予定である。 6月30日～7月3日、7月19日～8月21日のサラワク滞在中には Anap-Muput 森林管理区に設置してあるカメラトラップのバッテリー・メモリーの交換を行うとともに、森林管理区に多数の植生プロットを設置し、バイオマス測定を行い、コンセッション全体のバイオマス・樹木多様性センサスを行った。今後のデータ解析により、どのような森林の状態が動物の多様性を維持する閾値となっているかが明らかになる予定である。 またサラワクの Bintulu では地球環境研究所の加藤裕美氏とともに34集落をめぐって狩猟に関するインタビュー調査も行った。	
事業に係る研究成果（500～700字程度） 以下の2つの発表を行った。 6/26 Borneo Research Council (Brunei 大学) “Wildlife Use of Habitat in a Production Forest Environment in Central Sarawak (Jason Hon and Hiromitsu Samejima)” 6/29 “Human-Nature Interactions of the Riverine Societies in Sarawak: A Transdisciplinary Approach” Harbor View Hotel Kuching “Inventory of wildlife for sustainable forest management (Hiromitsu Samejima)”	